

2023 年度
事業計画書

学校法人 行吉学園

目 次

1	はじめに	p.1
2	2023年度の事業計画	p.2
	＜中期目標・中期計画に基づく事業計画＞	
I	教育に関する目標を達成するための計画	p.2
1	自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画	p.2
2	教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p.2
3	教育内容に関する目標を達成するための計画	p.2
4	教育課程に関する目標を達成するための計画	p.3
5	教育方法に関する目標を達成するための計画	p.3
6	国際化に関する目標を達成するための計画	p.4
II	研究に関する目標を達成するための計画	p.4
1	研究業績に関する目標を達成するための計画	p.4
2	学生の研究に関する目標を達成するための計画	p.4
III	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p.5
1	社会貢献に関する目標を達成するための計画	p.5
IV	学生の進路に関する目標を達成するための計画	p.5
1	進路支援に関する目標を達成するための計画	p.5
2	専門就職に関する目標を達成するための計画	p.5
3	優良企業就職に関する目標を達成するための計画	p.6
4	公務員就職に関する目標を達成するための計画	p.6
5	Uターン就職に関する目標を達成するための計画	p.6
V	学生支援に関する目標を達成するための計画	p.7
1	学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画	p.7
2	経済的支援に関する目標を達成するための計画	p.7
VI	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p.7
1	施設・設備に関する目標を達成するための計画	p.7

VII	入試広報に関する目標を達成するための計画	p.8
1	入試広報に関する目標を達成するための計画	p.8
VIII	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p.8
1	幼稚園に関する目標を達成するための計画	p.8
IX	組織に関する目標を達成するための計画	p.9
1	定員充足に関する目標を達成するための計画	p.9
2	大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画	p.9
X	財政に関する目標を達成するための計画	p.9
1	健全財政に関する目標を達成するための計画	p.9
(別表)	I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画	p.10
3	法人の体制	p.17
I	設置する学校・学部・学科等（2023年度予定）	p.17
II	役員の概要（2023年4月1日予定）	p.18
III	教職員の概要（2023年4月1日予定）	p.18
IV	組織機構図（2023年4月1日予定）	p.19

1 はじめに

学校法人行吉学園は、建学以来、豊かな知性を育む教養教育と高度な知識・技術を養う実学教育を通じて女性の自立を支え、世界の平和と人類の福祉に貢献しようとする有為な女性を育成してきたところである。しかし、昨今の大学を取巻く環境は、受験人口の更なる減少や大手私立大学の定員増等の影響から大変厳しい状況下であり、本学が今後とも発展していくためには、これまでに積み重ねてきた丁寧な教育を基本としつつ、これからの社会が必要とする能力を身に付けた卒業生を輩出していかなければならない。

このため、学校法人行吉学園では、これらの要請に応えていくために取り組むべき各般の施策の方向性を、2019年度を初年度とする5か年で達成する中期目標として定め、また、中期目標を達成していくため行動計画として中期計画を策定した。2023年度においては、この中期計画実施の最終年度となる。

そこで、中期目標並びに中期計画を達成していくために2023年度に取り組むべき施策の中から主な施策について、事業計画として次のとおり策定する。

2 2023年度の事業計画

＜中期目標・中期計画に基づく事業計画＞

(注) □内は中期計画、「・」は中期計画に対応する事業計画を示す。

I 教育に関する目標を達成するための計画

1 自立心・対話力・創造性の向上に関する目標を達成するための計画

【I-1】

自立心・対話力・創造性について、到達度調査の改善をはかり能力獲得の測定ツールとして確立し、各学科等において三つのポリシーに沿った学生の能力の伸長が実現できているか検証を行う。

また卒業生アンケート等により、獲得した能力と社会で求められている能力に乖離がないか検証を行う。

【I-1-1】

- ・卒業研究等の評価指標の運用定着を図る。2023年度に受審する認証評価と関連付けて行う。
- ・ポリシー類の内容を定期的に見直す必要があるため、教職員に対し継続的に内部質保証に関する研修会や情報提供を行っていく。
- ・外部アセスメントテスト導入から3年目となり、短大では同一学生の入学時点と卒業前の比較が可能になってから2年目となることから、結果をふまえて教育プログラムの改善点等を検討する。

2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

【I-2】

各学科、研究科等において、ディプロマポリシーに掲げる能力が身につけているか検証するための指標を開発したうえで目標を設定し、目標達成に向けたカリキュラムの改編など各種施策を実行する。

【I-2-1】

- ・各学科、各研究科等の計画は別表のとおり

3 教育内容に関する目標を達成するための計画

【I-3】

本学を卒業した学生全員が身につけておくべき能力に関する資質と、それに関わる指標を開発し、共通教養科目のカリキュラムを精査する。全専任教員が共通教養科目運営に関わる仕組みを整備する。英語教育については全学で組織的な教育体制を整備する。

【I-3-1】

- ・企画小委員会を組織し、魅力ある科目、学習システムの企画開発、他組織との連携等を行う。
- ・各専任教員が各々の専門性を鑑みながら、共通教養科目運営に関わる仕組みを整備する。
- ・英語教育については本学の特性を活かした教育体制を整備する。
- ・単位互換制度などにより、大学短大共通科目の設定を行い、教養教育の大短一体化を進める。
- ・「数理データサイエンス AI リテラシープログラム」の新科目を開講し、学習効果を検証する。
- ・STEAM 教育に根差した基礎学力の醸成の方針を反映させた各科目の再編成の取組みを進める。

4 教育課程に関する目標を達成するための計画

【I-4】

ナンバリングを利用した履修指導を行い、学生の体系的な学習を進める。また、学生の学習時間の確保に向け、履修上限単位数を引き下げるとともに、教養科目及び各学科における専門科目の科目数の圧縮をはかる。さらに、GPA を運用するうえでの課題を整理し、学生指導において有効な活用方法を開発する。

【I-4-1】

- ・過去2年間の実績をふまえて、各学科のカリキュラムポリシーに則った授業科目の廃止やコマ数削減などの検討を進めていく。
- ・GPA の活用法について全学的に取り組むように検討していく。
- ・CAP 制の適切な運用について更に検討を進める。

5 教育方法に関する目標を達成するための計画

【I-5】

授業アンケートを充実させ、教育方法の改善につながる仕組みを整備する。また FD 活動に全教員が参加する体制を整備し、教育支援ツールの活用等を推進する。教育効果に向け、IR データの収集・分析を進める。

【I-5-1】

- ・授業改善ツールとして効果的に活用するためのティーチングポートフォリオの導入に関する検討を進める。
- ・学内の好事例を中心とした研修を実施する。実際の改善につながる取り組みとなるよう施策を企画実施する。
- ・manaba の機能をより使いこなせるよう学内・学外研修を中心とした情報提供を行う。

6 国際化に関する目標を達成するための計画

【I-6】

派遣留学については、既存プログラムの内容の検証・改善を行うとともに、外国語運用能力の向上、国際交流に対して保証人の理解を深めるための活動を行う。留学生の受入については、提携校の開拓と受入体制の整備を行う。国際交流活動内容、現地およびオンラインプログラムの質の向上や、双方向の国際交流活動の充実を図る。

【I-6-1】

- ・国際シンポジウムとして、「人道危機における国際交流の役割」や、「世界を知ろうカフェ」等を企画し、実施する。
- ・留学生の受け入れ体制として、英語による専門分野の授業や日本語教育の授業を含めた教育プログラムの構築を検討する。
- ・2022年度に再開した海外留学・語学研修プログラム経験者からの留学体験談などを含めた留学説明会を実施する。

II 研究に関する目標を達成するための計画

1 研究業績に関する目標を達成するための計画

【II-1】

教員の職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準を設定し、毎年チェックを行う体制を整備する。研究活性化に向け、学外研究費の情報収集と学内への周知を強化する。

【II-1-1】

- ・職位ごとに一定期間で最低限必要な研究業績の基準について、業績評価基準案を基に更に議論・検討を進め、作成する。
- ・社会貢献分野との連携や学外情報の収集・周知をさらに積極的に推進していく。

2 学生の研究に関する目標を達成するための計画

【II-2】

学生の研究を活性化するため、大学院生と学部生が交流する機会を増加させるとともに、学会等の情報を提供して参加を促す。また、特別に優れた学部生・短大生の研究・探究活動について表彰制度を整備する。

【II-2-1】

- ・学内の学会、研究会を充実させるとともに、学外の学会への参加を促す。(英語英米文学科)
- ・修士論文中間発表会を継続して行い、学部生の参加を積極的に呼びかける。(史学科)
- ・学園表彰制度を積極的に利用し、学生の研究・探索への動機づけを行う。(家政学科)
- ・大学院進学について、学部オリエンテーションや同窓会、卒業生専用のコミュニティサイトを活用して、説明の機会を増やす。(看護学科)

III 社会貢献に関する目標を達成するための計画

1 社会貢献に関する目標を達成するための計画

【Ⅲ－１】

地域や企業・団体の課題解決を目的とした連携活動を増やす。学生の教育効果の充実をはかりつつ、地域連携、公開講座、産学連携、高大連携等事業として毎年複数件稼働させる。共同研究、受託研究の推進及び各種学協会の公募型研究への教員の応募を支援する。

【Ⅲ-1-1】

- ・「神女 support」による学生の主体的な地域活動を推進する。
- ・2022年度より開始した「女性活躍推進講座」の改善および広報を充実させる。
- ・高校の「探究の時間」に対して本学が持つ教育・研究リソースの提供の在り方を検討し、高校との協働関係を深める。

IV 学生の進路に関する目標を達成するための計画

1 進路支援に関する目標を達成するための計画

【Ⅳ－１】

1年次から卒業まで途切れのないキャリア支援活動を展開するとともに、学科等とキャリアサポートセンターの連携を強化して丁寧な支援を行う。保証人への情報提供を進め、保証人と協力した進路支援を行う。就職だけでなく進学への支援も強化する。

【Ⅳ-1-1】

- ・オンデマンドとライブを組み合わせた就職対策講座の推進、また公務員試験対策講座をさらに充実させる。
- ・Webを活用し、ライブまたはオンデマンドによる資格講座のラインナップを充実させ、資格サポートオフィスと連携し、受講率の向上を図る。

2 専門就職に関する目標を達成するための計画

【Ⅳ－２】

各学科の専門性を活かした就職を支援するため、学科等とキャリアサポートセンター・就職支援センターの情報共有、職種ごとの就職ガイダンスを実施する。就職の前提となる資格試験や教員採用試験の合格に向けて、関係機関との連携を強化する。

【Ⅳ-2-1】

- ・ICTを活用し、学科、キャンパス間、他部門と連携した学生支援を行う。
- ・教育委員会の合同説明会を企画し、在学生への参加を促す。
- ・学科と連携し、2次試験対策の強化をはかり、合格率の維持向上を目指す。
- ・短大は大学生と共同でワークショップを実施し、短大生の教職意識意欲の向上をはかる。

3 優良企業就職に関する目標を達成するための計画

【IV-3】

事業規模・内容に加え、離職率等の状況も含めた優良企業に多くの学生が内定を獲得できるための支援を行う。基礎学力や情報スキル向上のため、対策講座や資格講座の活用をはかる。

【IV-3-1】

- ・年度末に「進路決定満足度調査」を実施し、調査内容を精査し、満足度の高い企業への就職を推進していく。
- ・対面式やオンライン式の合同企業説明会に加え、学生ニーズに応じて個別企業説明会や地方企業説明会を実施する。

4 公務員就職に関する目標を達成するための計画

【IV-4】

公務員就職を増やすため、1年次から意識の涵養をはかる。また公務員試験対策講座の受講を勧め、各地域の試験情報、試験内容を提供するとともに、面接対策を実施する。

【IV-4-1】

- ・1年次に公務員に就職した卒業生の体験談発表会や、公務員の仕事についてのガイダンスを行い、意識の涵養をはかる。
- ・Uターン希望者を中心に公務員試験の受験を促す。

5 Uターン就職に関する目標を達成するための計画

【IV-5】

Uターン希望率やUターン就職率等の調査を実施したうえで、Uターン希望者の就職を確実に実現する支援を行う。また、地方公共団体とのUターン協定を推進するとともに、地方優良企業との関係構築をはかる。

【IV-5-1】

- ・内定実績のある地方優良企業の学内説明会の機会を増やす。
- ・1年次からUターン就職説明会への参加を促進する。
- ・中国・四国全県とのUターン協定締結を完了する。

V 学生支援に関する目標を達成するための計画

1 学生満足度・帰属意識に関する目標を達成するための計画

【V-1】

学生満足度及び帰属意識に関する指標を開発する。退学率低減のため、退学者予備軍の把握が可能な仕組みと、関係部署によるフォロー体制を整備する。学生の出身地域別コミュニティ組織化や、上級生によるピアサポート制度を活性化させる。また、各クラブの活性化をはかるためのクラブ紹介の方法や、魅力あるクラブ育成の方策を検討する。

【V-1-1】

- ・学生が抱える個別の課題に対し、外部専門機関との連携・企画の活用等連携支援の仕組みづくりを行う。
- ・4月の学友会開催新入生歓迎会を利用して、出身地域別コミュニティを組織化し、履修相談、進路相談等を気軽に行える仕組みの整備を進めていく。
- ・オリエンテーション期間中に上級生との交流またはピア支援の機会を設ける。

2 経済的支援に関する目標を達成するための計画

【V-2】

公共団体による奨学金制度及び福祉や看護などの資格取得と就職支援に関する奨学金の情報収集を強化し、学生への周知を図る。

【V-2-1】

- ・クラス担任や学生支援委員等との連携を強化し、経済的な支援を要する学生への早期対応をこれまで以上に心がけて対応する。
- ・就職支援に関する奨学金制度について、これまで進めてきた福祉・看護・保育分野以外の学生も利用できる制度の開拓に着手する。

VI 施設・設備に関する目標を達成するための計画

1 施設・設備に関する目標を達成するための計画

【VI-1】

施設・設備及び教育環境に関する学生満足度指標を開発し、学生のニーズに配慮した整備計画を策定する。安全性や劣化状況を踏まえた施設・設備のメンテナンス及び更新を行う。学生の大学生活充実に資するスペースの改修を進める。

【VI-1-1】

- ・2022年度の須磨キャンパス A 館ラウンジ改修に続き、更なる休息スペースの整備として食堂2階の改修を検討する。
- ・学生の意見・提案を取り入れた実証実験を行い、屋外スペースを中心に学生が集い、日常を過ごすスペースの整備を検討する。
- ・2022年度のPIキャンパス A 館外壁改修工事に続き安全安心なキャンパス整備として B

館及びセンターホールの外壁改修工事をする。

- ・ A 館 6 階講義室の空調更新を行い学習環境の改善及び省エネを検討する。

VII 入試広報に関する目標を達成するための計画

1 入試広報に関する目標を達成するための計画

【VII-1】

各学科との連携を強化し、就職・資格取得に強い本学の特長に関する積極的な広報活動を実施する。質の高い情報提供や出前授業による高校との関係強化をはかるとともに、地域や高校の特徴に応じたより戦略的な広報活動を展開する。高大接続改革に対応した入試制度の改革を進め、多面的な評価により意欲・能力ともに高い学生の獲得を実現する。

【VII-1-1】

- ・ 各学科の差別化となる取組みや強みを関係会議で整理し、高校訪問、進学相談会、OC 等で志願者や高校教員向けに提供する。
- ・ Web マーケティング調査を分析した HP の改善を行う。
- ・ 入試 WG と連動し、わかりやすく高校側の共感を得られる AO 入試の検討を行う。
- ・ 志願者動向の分析に基づき、認知度アップを図る広告展開について計画的に実施する。
- ・ 指定校出願者、キャンパス見学会、教員対象説明会参加者について前年度 1.5 倍の目標を掲げ、活動を一層強化する。

VIII 幼稚園に関する目標を達成するための計画

1 幼稚園に関する目標を達成するための計画

【VIII-1】

地域の幼児数の将来予測や他園の運営状況を分析し、定員確保に向けて運営形態、運営方法の見直しをはかる。無償化を含めた就学前教育制度の変革に対応していく。

【VIII-1-1】

- ・ 教職員同士が密に連携し、多面的に園児を見て理解し合い、援助に生かしていく。
- ・ 給食の実施について、今後もアレルギー対応に注意するとともに栄養価が高く、様々な食材に触れ、子ども達が楽しんで食べられる調理法を工夫し、提供していく。
- ・ 預かり保育の利用者増に対応するため、体制を整え、預かり保育担当教員との連携を密にはかり、安全面、健康面に注意を図り運営する。

IX 組織に関する目標を達成するための計画

1 定員充足に関する目標を達成するための計画

【IX-1】

社会が必要とする人材及び受験生が志望する分野の動向を把握し、常時各学科等の教育内容の見直しや新学科等の設置を含め学科の在り方等を検討していく。

定員未充足を解消するための対策基準の周知・徹底をする。

【IX-1-1】

- ・大学・短大ともに学園全体としての具体的な新学科構想及び再編計画を打ち出す。
- ・志願者減少に対応するための具体的な対応策を構築する。
- ・社会情勢及び受験生の動向の把握、他大学の改組等に関する情報の収集を引き続き行う。
- ・経済的な負担の軽減および社会人の志願者増を目指すため、2024年度から短期大学に長期履修制度を導入する。

2 大学・短大一体的運用に関する目標を達成するための計画

【IX-2】

法令上の制約等を踏まえたうえで、大学と短大の教学部門の組織や委員会等について統合もしくは合同設置等を実現し、効率的かつ効果的な運用が行えるよう、教学及び事務組織の体制整備をはかる。

【IX-2-1】

- ・各種委員会の大短一体化運用の下、各部署におけるキャンパス間、大短間での相違点を調整しながら各課題を解決していく。
- ・大学・短大の教学組織を一体化し、事務組織との連携強化を図り、効率の良い運営を進める。

X 財政に関する目標を達成するための計画

1 健全財政に関する目標を達成するための計画

【X-1】

寄付金や補助金及び資産運用収入の増加をはかるとともに、管理経費や人件費等の支出費の見直しを行い、財務体質の強化を進める。人件費については、将来に亘り運営が可能な人員配置及び各種制度の変更を検討する。各学科の科目数・コマ数の適正化をはかり、大学・短大全体で効率的な教育課程を整備する。

【X-1-1】

- ・透明性の高い人事考課を目指した職員人事制度の改正を行い、移行期間として実施し、職員の意識向上を実現する。
- ・DX推進やペーパーレス化、業務手順の改廃、業務委託などを行い業務全体の効率的な運営を実現する。

(別表)

I-2 教育内容に関する目標（各学科、研究科等）を達成するための計画

神戸女子大学

文学部	2023 年度計画
日本語日本文学科	<p data-bbox="547 376 1348 465">日本語運用能力、表現力及びコミュニケーション能力向上に向けた取組や、キャリア意識涵養に向けた取組を行う。</p> <ul data-bbox="547 477 1348 745" style="list-style-type: none">・ 古典文学関係、日本語表現関係科目の更なる改良を検討する。・ 学科行事として文学散歩や芸能鑑賞などの体験学習を行う。またウィズコロナ・アフターコロナの社会に対応して実施できる形態を模索する。・ 就職活動について全学年が参加可能なイベントを行い、キャリア意識を涵養する。
英語英米文学科	<p data-bbox="547 779 1348 869">専門性及び英語運用能力強化に向けた取組とカリキュラム改編を行う。</p> <ul data-bbox="547 880 1348 1193" style="list-style-type: none">・ ゼミ担当教員は、指導生の TOEIC スコアを把握し、適切な勉強方法を教える。・ 3, 4 回生向けの TOEIC クラスを新設し、英語力の向上を図る。・ 英語で卒業論文を書く学生の比率を高める。・ エアライン業界に就職した卒業生の講演会や JAL との産学連携を進め、キャリア意識の涵養強化を行う。
国際教養学科	<p data-bbox="547 1227 1348 1361">国際教養修得度の指標開発を行うとともに、専門性及び語学力強化に向けた取組みとカリキュラム改編、学生の研究活性化及びキャリア意識涵養に向けた取組を行う。</p> <ul data-bbox="547 1373 1348 1798" style="list-style-type: none">・ 様々な外国のルーツを持つ教員から学ぶことを通じて「グローバル言語としての英語」を重視した授業を行う。・ オフ・キャンパスプログラム参加後のフォローアップ学習、提携校とのオンラインイベントの整備に取り組む。・ 全学年参加可能な「卒論成果発表会」を企画し、卒論提出者全員がポスター発表会を行う。・ 学科サポートの新たな資格として、国連英検、インターカルチャル・コーディネーター、全国通訳案内士、地域通訳案内試験、ニュース時事能力検定を追加する。

史学科	<p>歴史についての基礎知識を充実させ、歴史学の基本原則を堅持しつつ、表現力、コミュニケーション能力の向上をはかるカリキュラム編成と指導体制を検討する。学生の研究活動の活性化、および異学年交流のための合同ゼミ発表会等を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地方公共団体との連携を強める。 ・アクティブ・ラーニングの一環として、1回生でゼミ毎の学外実習と全体でのプレゼンテーションや、民俗学、考古学の実習科目等で学外の史跡・博物館等の見学を積極的に取り入れる。
教育学科	<p>子どもの理解及び指導力に関する指標の開発、専門性強化及び教採合格に向けた取組とカリキュラム改編を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・1, 2回生のアンケート結果を参考にして、子どもの理解および指導力に関する指標を作成する。 ・各コースのカリキュラムマップを見直し、理想のカリキュラムマップを作成する。 ・教育学科独自のFD研修実施など、学科としてFD活動を推進するとともに、事務部門との情報共有、協調のもと学科運営を進める。
家政学部	
家政学科	<p>コース体制の問題点の把握と改善を実施し、家政学の体系的な学びを構築するためのカリキュラムの見直しを行うとともに、家庭科教員養成校としての役割の強化及び各種資格を活用した学びを展開する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・2024年度版カリキュラムの実施に向けて準備を行う。 ・授業時間外の学習時間を確保するとともに、形成的評価を取り入れることで学生及び教員の双方が見通しをもち目標達成ができるよう指導課程を工夫する。 ・学内での教採や教育実習等の情報交換、卒業生との交流を深めるために教職学習会を充実する。 ・兵庫県内だけではなく学生の地元での中高教員採用合格率をキープする。
管理栄養士養成課程	<p>管理栄養士のリーダーとなりうる人材を養成するため、食と健康のプロに関する指標を開発する。専門性強化及び国家試験全員合格に向けた対策とカリキュラム改編に取り組む。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・指標開発のために学科のルーブリックを策定し、卒業論文を含めた他の科目の評価に拡大する。 ・コロナ禍での卒論発表会を充実させるために、実施時期や方法等について具体的な実施方法を策定する。

	<ul style="list-style-type: none"> ・国試対策の模試成績だけでなく、通常講義の成績についても学科内で共有を図り、引き続き成績不振者のフォロー体制を強化する。
健康福祉学部	
社会福祉学科	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>社会福祉士国家試験全員受験に向けた取組と、カリキュラムの改編を行う。高校、短大等への出張講座に出向き、社会福祉に対する理解を目指す。学生の研究活性化や、キャリア意識の涵養強化に向けた取組を行う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・社会福祉研究交流会を継続実施し、より多くの卒業生の参加を促し、在学生に卒業生の姿を見てもらえるようにする。 ・社会福祉の実践現場見学やボランティア活動を夏季休暇中の課題に位置付ける。 ・資格取得への動機づけ強化を目的に挑戦講座を実施し、自習を促す。 ・兵庫県進路選択学生等支援事業助成金を獲得し、広報活動および高校への出張講義について前年度と同程度以上の実績を目指す。
健康スポーツ栄養学科	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>スポーツ関係を重視した専門性の強化及び学科の特長明確化に向けた取組とカリキュラム改編を行う。また、学生の研究活性化、大学院希望者の掘り出し、キャリア意識の涵養強化のための取組を行う。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> ・2023年度からの新カリキュラムを実施していく。 ・栄養士の魅力を伝え学生の意欲を維持するために、卒業生による講演や、卒業生の勉強会などの取組み体制を構築する。 ・健康スポーツコース・健康栄養コースに共通するスポーツや栄養関係の学外特別講師の起用を含めた授業展開の拡大を目指す。

看護学部	
看護学科	<p data-bbox="587 230 1345 416">教育の特色化及び質保証に取り組む。保健師・助産師・看護師国家試験全員合格に向けた1年次からの学習支援を行う。充実した実習先との連携強化を行う。教員の看護実践活動の推進を行う。</p> <ul data-bbox="587 432 1345 936" style="list-style-type: none"> ・授業間の連携、演習科目における一貫性と統一性、授業・演習と実習の効果的な連携を図るために、科目間連携について評価を行う。 ・同窓会やコミュニティサイトを通して、大学院進学以外に、科目等履修制度について説明する機会を設ける。 ・臨地実習施設である病院のほか、介護老人保健施設等地域の実習施設での連携体制をより良くするために、客員教授等の依頼対象施設を選定し、依頼を行う。 ・看護研究支援部門と看護コンサルテーション部門を置く「看護学部・看護学研究科看護実践開発支援室」を開設し、相談を受け付ける体制を構築する。
心理学部	
心理学科	<p data-bbox="587 1023 1345 1256">他者との対話を通じた相互理解に基づいて、行動を選択できる能力を養成するため、社会の中に広がっている膨大な情報の質を見極めて取捨選択して客観的に分析し、臨床実践や経済活動の場で活かしていくことのできる資質を有した人材を育てる教育を展開する。</p> <ul data-bbox="587 1272 1345 1727" style="list-style-type: none"> ・パソコン必携化により情報を扱う技能や態度に関する自己評価を情報処理士ガイドラインのルーブリックを参照して行い、その効果を検証する。 ・1年生の「地域学習」の履修率が引き続き5割を超えるよう、学生に対しての周知徹底を図る。 ・授業の諸活動をポートフォリオとしてまとめ、学生の振り返りを実施し、社会とのつながりに関わる大学での学びの達成度を学生自らが確認することを実施する。 ・「臨床心理センター」は、地域の医療機関などの諸機関との連携を深め、来談者の増加を図る。

神戸女子大学大学院

<p>文学研究科</p>	<p>指導教員の研究成果のさらなる向上をはかるとともに、研究の魅力を普及して学部生の進学意欲を喚起する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部ゼミでの研究を活性化しつつ、大学院と学部の合同研究会を開くなどして研究の魅力を普及し、学部生の進学意欲を喚起する。 ・他研究室、他大学との交流を活性化し、外部の学会への積極的な参加を促す。 ・キャリアサポートセンターと連携し、きめ細かな進路指導を実施する。
<p>家政学研究科</p>	<p>研究の強化、学部との接続強化、大学院の PR 施策の強化を図る。また、院生の就職支援、魅力ある制度の新設にも力を入れる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院担当教員活動評価簡易版を用いて各教員の自己評価を促し、研究の活性化につなげる。 ・進学説明会で研究活動とともに栄養教諭専修免許取得が可能であることを進学説明会でアピールする。 ・大学院科目早期履修制度の広報強化を行うとともに、課題の検証を行う。
<p>健康栄養学研究科</p>	<p>大学院の魅力を伝えるため、学部講義内で大学院生の発表会実施や大学院の HP を魅力あるものに変えていく。栄養士実務経験と研究力両立に向けた取組を継続する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・大学院生の研究活動に気軽に触れられるよう、Zoom や manaba を用いて、中間発表会や修士論文発表会などの研究活動を視聴できる仕組みを構築する。 ・修士 2 年生の学会発表を原則必須とすることを目標とする。修士 1 年生においても、研究会、学会への参加を促し、他大学の大学院生との交流を深められるようにする。 ・TA の学生に学科の授業で講義や発表ができる環境を構築する。
<p>看護学研究科</p>	<p>大学院生の研究能力の向上に取り組む。また、教育の特色化に向けて専攻分野の見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・看護学研究に関連する科目の授業課程の質評価に基づく授業改革を実施し、授業前後のアンケート結果を分析して評

	<p>価する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学部生へ大学院生の研究を紹介する機会を設け、学部生の進学意欲を高める。 ・2023年度に教育課程の一部改変を行ったことを広報し、看護学部卒業生からの大学院への進学を促す。
--	---

神戸女子短期大学

総合生活学科	<p>輩出する卒業生の特徴・意欲・実践力に関する指標の開発及び強化に向けた取組とカリキュラム改編を行う。また、科目数の削減と集中、大学への接続機能の特長化、キャリア意識の涵養強化に向けた取組を行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・異なる分野の学びを通して生活全般に関わる諸問題を総合的に学ぶ学科の特長をカリキュラムに反映するための点検・見直しを継続して行う。 ・編入学希望者を1年前期から把握し、進路選択できるように、家政学科、社会福祉学科、他学科の就職先を紹介する。 ・半数以上の学生がインターンシップにエントリーできるようキャリアサポートセンターと連携を進めていく。 ・「数理・データサイエンス・AI教育プログラム認定制度(リテラシーレベル)」に対応するための科目変更および新設を行う。
食物栄養学科	<p>専門性の強化、特長の明確化及び学生の意欲引き上げに向けた取組と、既存科目の内容強化を行う。卒業生を大切にすることを特長化する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・食のスペシャリストに関する指標として、食栄履修カルテを活用し学修成果を可視化していく。 ・図書館との連携や「e-ラーニング」を活用し、栄養士の基礎力アップにつながるような方策を実施していく。 ・食栄ホームカミングデーを充実させ、卒業生対象の管理栄養士国家試験対策講座の参加者増加につなげる。 ・2年次のキャリアアップ科目「栄養士実務技術演習」の内容を強化し、就職後も質の高い栄養士として活躍するための教育内容の充実を図る。

<p>幼児教育学科</p>	<p>保育実践力に関する指標開発及び向上を図る取組を行うとともに、公立幼稚園教諭・保育士採用試験合格に向けた対策強化を行う。保育士再就職支援講座を開設し、卒業生支援を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育実践力を身に付けるために、2024年度教育課程を全面的に見直し、教育の質を落とさずスリム化を目指す。 ・卒業生を含めた公立幼保合格者輩出のために、教職支援センターと連携を密に取り、学生への啓発、全教員への研修の具体的検討に取り組む。 ・教育学科と連携し、編入希望者向けの小免取得のための履修モデルを作成する。 ・「認定ベビーシッター」資格について、卒業生向けに科目等履修での受講が可能であることを広く発信する。
---------------	--

3 法人の体制

I 設置する学校・学部・学科等（2023年度予定）

区 分	学部・学科等			入学定員	収容定員	予定数
神戸女子大学 大 学 院	家政学研究科 (博士課程)	食物栄養学専攻	前期	8	16	12
			後期	2	6	1
		生活造形学専攻	前期	6	12	1
			後期	2	6	0
	小 計			18	40	14
	文学研究科 (博士課程)	日本文学専攻	前期	4	8	1
			後期	2	6	1
		英 文 学 専 攻	前期	4	8	0
			後期	2	6	1
		日本史学専攻	前期	4	8	2
			後期	2	6	0
		教育学専攻	前期	4	8	0
	後期		2	6	2	
	小 計			24	56	7
健康栄養学研究科 (修士課程)	健康栄養学専攻		4	8	9	
看護学研究科 (博士課程)	看護学専攻	前期	8	16	17	
		後期	3	9	13	
合 計			57	129	60	
神戸女子大学	家 政 学 部	家 政 学 科		80	320	293
		管理栄養士養成課程		160	620	550
		小 計		240	940	843
	文 学 部	日本語日本文学科		60	240	183
		英語英米文学科		60	240	152
		国際教養学科		60	220	130
		史 学 科		60	240	173
		教 育 学 科		165	660	461
		小 計		405	1,600	1,099
	健康福祉学部	社会福祉学科		80	320	239
		健康スポーツ栄養学科		80	320	253
		小 計		160	640	492
	看護学部	看護学 科		90	360	356
	心理学部	心 理 学 科		80	160	175
合 計			975	3,700	2,965	
神戸女子 短 期 大 学	幼 児 教 育 学 科			80	160	63
	総 合 生 活 学 科			100	200	101
	食 物 栄 養 学 科			60	120	76
	合 計			240	480	240
幼保連携型認定こども園 神戸女子大学附属高倉台幼稚園				—	170	151
総 計			1,272	4,479	3,416	

II 役員概要 (2023年4月1日予定)

(1) 定数等

区分	定数	実数			任期	備考
		常勤	非常勤	計		
理事	8人	5人	3人	8人	4年	1号理事(神戸女子大学長)の任期は在職期間
監事	3人	—	3人	3人	4年	

(2) 寄附行為の選任条項

(理事)

第6条 理事は、次の各号に掲げる者とする。

- (1) 神戸女子大学長
- (2) 評議員のうちから評議員会において選任した者 4人
- (3) 学識経験者のうちから理事会において選任した者 3人

2 前項第1号及び第2号の理事は、学長又は評議員の職を退いた時は、理事の職を失うものとする。

(監事)

第7条 監事は、この法人の理事又は職員(学長、教員その他の職員を含む。)又は評議員以外の者のうちから理事会において選任する。

(3) 役員一覧

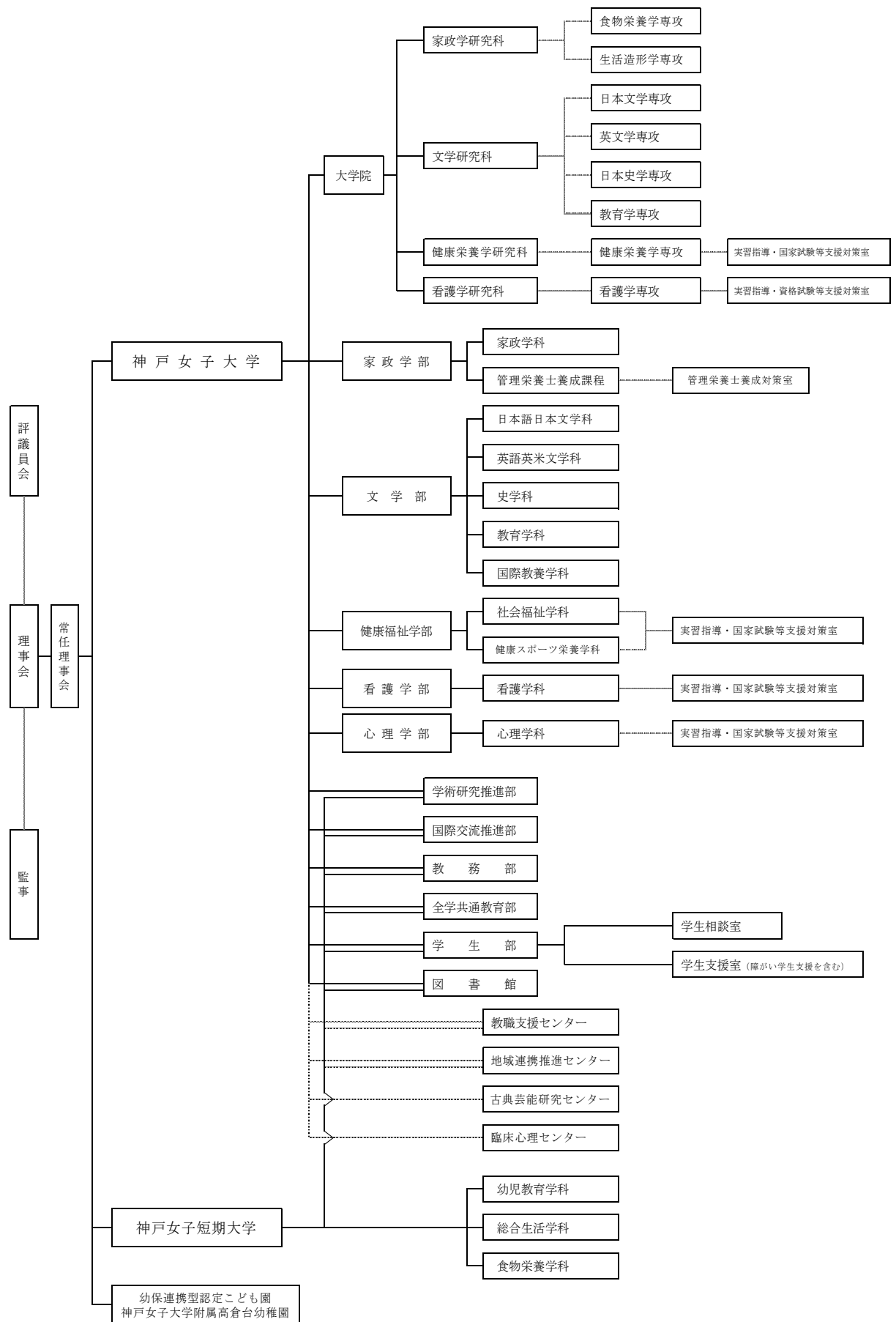
区分	氏名	就任年月日	重任年月日	選任区分	選任条項
理事長	行吉 宜孝	H31.4.1	(R4.6.29)	学識経験者	6-1-3
理事	栗原 伸公	H31.4.1	(R5.4.1)	神戸女子大学長	6-1-1
理事	今井 修平	H18.4.1	(R4.6.29)	評議員	6-1-2
理事	前田 研史	H31.4.1	(R4.6.29)	評議員	6-1-2
理事	伊吹 眞澄	H30.6.29	(R4.6.29)	評議員	6-1-2
理事	多畑 寿城	R4.4.1	(R4.6.29)	評議員	6-1-2
理事	根岸 成直	H18.6.29	(R4.6.29)	学識経験者	6-1-3
理事	小川 清四郎	H30.6.29	(R4.6.29)	学識経験者	6-1-3
監事	横田 成樹	H26.6.29	(R4.6.29)	理事会選任	7-1
監事	亀井 尚也	H23.5.27	(R4.6.29)	理事会選任	7-1
監事	打越 信男	R3.6.29	(R4.6.29)	理事会選任	7-1

III 教職員概要 (2023年4月1日予定)

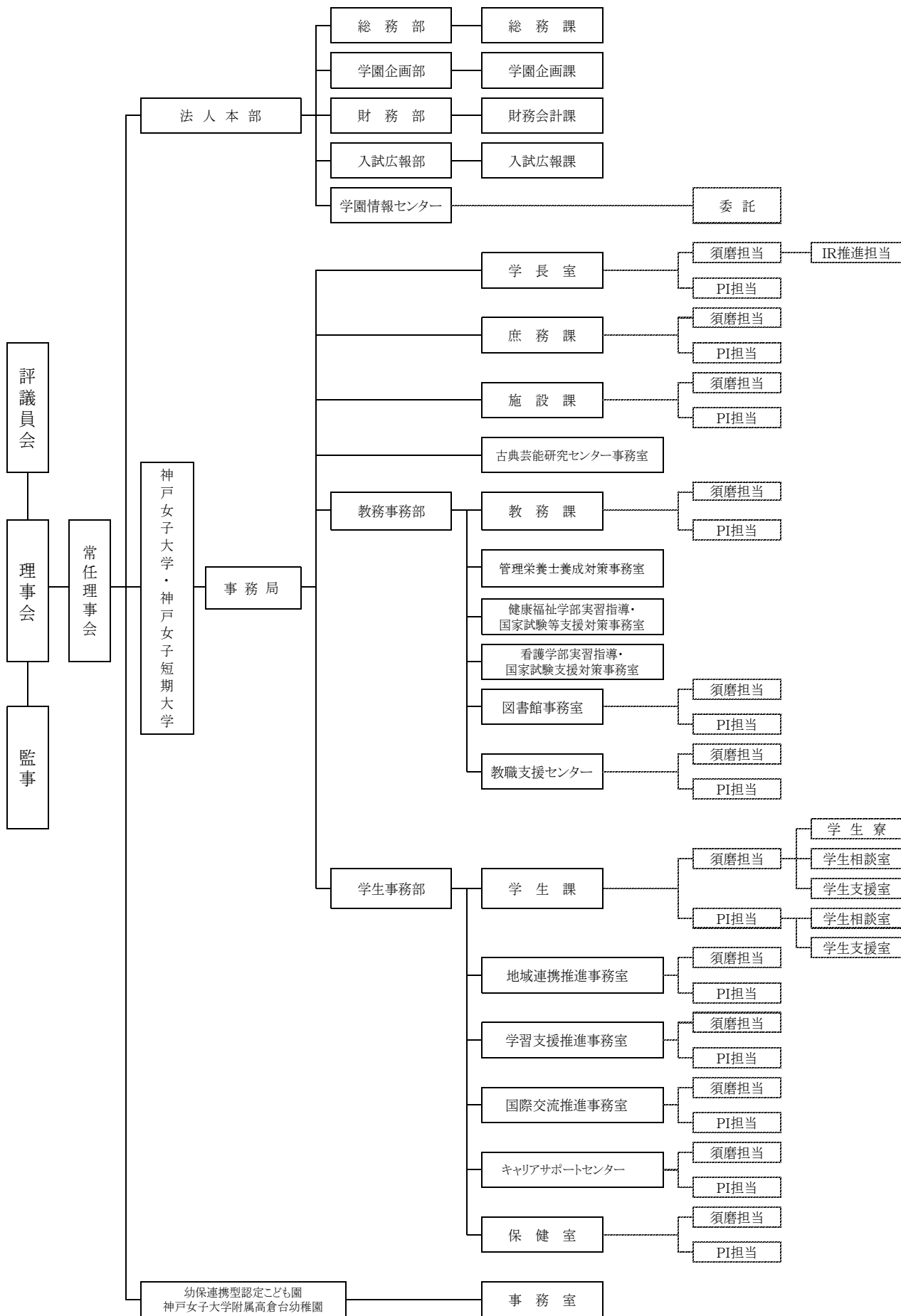
区分	法人本部	神戸女子大学	神戸女子短期大学	附属高倉台幼稚園	合計
専任教員数	—	190	29	12	231
専任職員数	8	85	7	4	104
計	8	275	36	16	335

IV 組織機構図 (2023年4月1日予定)

(1) 教学組織



(2) 事務組織





「自立心・対話力・創造性」
を培う教育を目指しています

学校法人行吉学園

〒650-0046

神戸市中央区港島中町4丁目7-2

Tel : 078-303-4712

Fax: 078-303-4713